

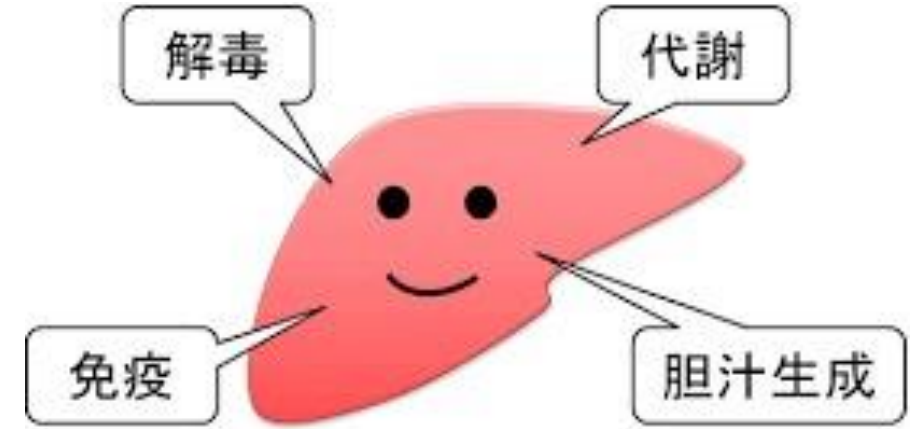
薬で肝臓が悪くなる！？

薬物性肝障害って？

薬剤部



薬物性肝障害とは？



肝臓の主な働き

- 肝臓は食物や薬物など様々な物質の代謝や解毒を行っている重要な臓器である。
- 薬物が原因で起こる肝臓の炎症を薬物性肝障害と呼ぶ。
- 全ての薬物で生じる可能性があり、病院で処方された薬だけでなく、漢方薬や健康食品、サプリメントなどでも起こり得る。

薬物性肝障害の分類

【発症機序による分類】

薬物性
肝障害

中毒性肝障害：お薬を大量に飲んだときに現れる副作用

アレルギー性肝障害：お薬を飲んだ量に関係なく現れる副作用

【肝障害の分類】

- 肝細胞障害型：肝臓の細胞自体が障害され、代謝・分解能力が下がる。
- 胆汁うっ滞型：胆汁の流れが妨げられる。黄疸、皮膚の痒み、ALP値の上昇が特徴的。
- 混合型：上記の2つが同時に出現するもの。

薬物性肝障害の症状は？

- ほとんどの方は症状がなく、軽度の肝障害が多い。
- 肝機能障害が強かったり、長引いたりすると、「倦怠感」、「発熱」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」などの症状が出ることもある。
- 放っておくと重症化し、「黄疸」や「脳症」、命に関わる「肝炎（劇症肝炎）」を起こすおそれもあるので、早めの対処が大切。



どんなお薬で起こりやすいの？

- 解熱消炎鎮痛薬
- 抗がん剤
- 抗真菌薬
- 漢方薬 など



これ以外の薬でも起こることがあります。

薬の説明書



お薬の名前	カロナール錠【500mg】
飲み方/使い方	処置用法
コメント	

服用中、全身倦怠感、食欲不振、吐き気、嘔吐、体のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなる、尿の色が濃くなる、意識の低下などの症状が現れたときは、すぐに医師にお知らせください。

服用中、動悸、冷や汗、顔面蒼白、息苦しい、顔やまぶたのはれ、皮膚が赤くなる、じんま疹などの症状が現れたときは、すぐに医師にお知らせください。

服用中、高熱、皮膚が広範囲で赤い、口内炎、目の充血、水ぶくれ、膿をともなう発疹などの症状が現れたときは、すぐに医師にお知らせください。

他の医師の診察を受ける場合には、これらの薬を使用していることをお伝え下さい。
また、薬の服用中に普段とは異なる心配な症状が現れたら、医師にご相談下さい。

兵庫県立加古川医療センター
TEL:0794-97-7000

肝障害を起こす可能性のある薬には、注意喚起がなされていたり、副作用として報告されている。その点を注意して薬を使用することが必要。

健康食品・サプリメントによる薬物性肝障害

- 広く健康の保持増進に資する食品全般を指す。(出典:厚生労働省HP)
- 普段の食事にプラスして摂取するため特定の成分を過剰摂取してしまう可能性もある。
- 国内での健康食品による薬物性肝障害の原因として報告されているもの → ウコン、アガリクス、プロポリス、クロレラ、ノニ、スクワレンなど
- 海外ではグルコサミン、ハーブ系健康食品で肝障害の報告あり。

(1) ウコン



- ショウガ科の多年草で、カレー粉などに含まれるターメリック
- ウコンによる自己免疫性肝炎の発症も報告されている。
- ウコンには鉄が多く含まれているため、連日の摂取で鉄が蓄積することによりC型肝炎の悪化につながる可能性がある。

(2) アガリクス



- 日本名:ヒメマツタケ
- 抗腫瘍効果、免疫賦活作用がある。
- 劇症肝炎など重篤な肝障害の報告もあり。

(3) プロポリス



- 蜜蝋とも呼ばれ、抗菌作用があるとされている。
- 180種以上の栄養成分が含まれるとされ、蜂の生息域によってはアレルギーを発症しやすい成分を含む。
- 接触性皮膚炎や肝障害、血液凝固系の異常を発症した例も報告されている。

(4) クロレラ



- 藻の1種で、栄養価の高さから健康食品として多く流通している。
- 過去には製造過程で出る成分が光線過敏症を引き起こし問題となった。
- 急性肝不全となった症例も報告されている。

(5) その他のハーブ型健康食品



- ノニ

日本ではジュースとして飲まれることが多い。

カリウムを多く含むため腎機能の低下した方では高カリウム血症に注意。海外では肝障害例も報告されている。

- グルコサミン

海外ではグルコサミンとコンドロイチンを摂取し自己免疫性肝炎を発症した例もある。

- その他、ダイエット用健康食品など

漢方薬による薬物性肝障害

- 肝障害の程度は、ごく軽症のものからまれに劇症肝炎を来すこともある。
- 肝障害を発症するまでの期間は、飲み始めて1週間以内から、4カ月以上経過してから確認されることもある。
- 特に肝障害を起こす生薬としては「**オウゴン**」が知られており、定期的に肝機能をチェックする必要がある。
- その他には「柴胡・半夏・人参・沢瀉(オモダカ)・生姜・甘草」など

• 重篤な薬物性肝障害を来した報告例

小柴胡湯、柴苓湯、大柴胡湯、半夏瀉心湯、柴胡桂枝湯、温清飲、 補中益気湯、乙字湯、葛根湯、防風通聖散、女神散、黄連解毒湯など

※全ての漢方薬が危険なわけではありませんが、
ドラッグストアで購入した漢方薬も、注意は必要です。



一般用医薬品（OTC薬）による薬物性肝障害

- 報告頻度の高いもの

→ 総合感冒薬・解熱鎮痛薬・漢方薬・胃腸薬・ビタミン剤など

- 多くは薬物中止により改善するが、重篤な合併症を起こすこともあるため注意。
- 総合感冒薬や解熱鎮痛薬に含まれているアセトアミノフェンは多量に摂取すると肝障害を引き起こす。
また、アルコールとの併用でさらに肝障害が起こりやすくなる。

薬物性肝障害の治療



薬物性肝障害の治療

- 原因の薬剤を中止する。
- 安静にして脂肪分の少ない食事を摂る。
- 肝機能を改善させるためのお薬を服用する。
- 薬・サプリメント・健康食品を常用する際は、
定期的な肝機能検査を行うことが必要な場合がある。

ウルソデオキシコール酸

グリチルリチン製剤

副腎皮質ステロイド薬 など

ウルソデオキシコール酸



- もともと肝臓から作られる「胆汁(胆汁酸)」の一成分
- 作用:胆汁分泌を促進、胆石を溶かす、肝機能の改善
コレステロール吸収抑制
- 副作用:軟便、下痢、吐き気、胸やけ など

グリチルリチン製剤



- 漢方生薬の甘草(かんぞう)から抽出
- 商品名: ヒシファージェン®(注射)・グリチロン®(飲み薬)など
- 作用: 抗炎症、免疫調節、肝細胞の保護
- 副作用: 食欲低下、胃の不快感、アルドステロン様作用
(低カリウム血症や高血圧)

副腎皮質ホルモン剤(ステロイド剤)



- ・副腎皮質という組織から分泌されているホルモン
- ・作用: 抗炎症作用・抗アレルギー作用・免疫抑制作用をもつ
- ・副作用: 高血糖、高血圧、高脂血症、消化性潰瘍、骨粗鬆症、
筋力低下、不眠・精神変調、免疫機能の低下 など

その他の治療薬



薬品名	分類	効果
インチンコウトウ 茵陳蒿湯	漢方薬	胆汁の分泌を抑制する。
ベザフィブラート	高脂血症治療薬	胆汁中への脂質の分泌を促進、肝機能改善作用、抗炎症作用をもつ。
コレスチラミン	高コレステロール 治療薬	胆汁酸・コレステロールを吸着し、排泄を促進する。痒みを和らげる。
タウリン	肝・循環機能改善薬	胆汁酸の排泄を促進する。
フェノバルビタール	抗てんかん薬	胆汁流量を増やす、肝血流の増加、グルクロン酸抱合を促進する。

早期発見と早期対応のポイント

- 薬物性肝障害は誰にでも発症する可能性があります。
- 薬や健康食品を使用していて、「倦怠感」、「発熱」、「黄疸」、「発疹」、「吐き気・嘔吐」、「かゆみ」といった症状が急に出現したり、続く場合は、放置せずに医師・薬剤師に連絡してください。
- 受診する際には、飲んだお薬の種類・いつ飲んだのか・症状とその程度などをお知らせください。



さいごに



- 他の病院から出されたお薬や健康食品・サプリメントを
摂取している場合は必ずお知らせください。
- 飲み合わせの確認も大切ですので、 お薬手帳を活用しましょう